

ウクライナ危機の影響を受けた子どもたちの生活

今すぐ

行動を

ウクライナで続く紛争により、日々数え切れないほどの人命や家屋、 子どもの生活が失われている。

私たちは、紛争下では女の子やユース女性が不公平に影響を受ける ことが多く、社会の崩壊とともに彼女たちの権利の向上が大きく後退 しかねないと懸念している。

ウクライナでの紛争は、迅速かつ大規模な人道支援を必要としている。暴力と爆撃から逃れるために、家族は最小限の身の回りのものだけを持って避難せざるを得ない。避難した人には、シェルターや保護、毛布、食料、水、医療支援、そして精神的なケアとサポートが、いますぐ必要である。

プラン・インターナショナル(以下、プラン)は、24時間体制で救援活動を行っているモルドバ、ポーランド、ルーマニアの団体と連携を密に活動している。そして、現地の団体と協働して、ウクライナ国境を越えて避難してきた子どもや家族を迅速にサポートできるようにするために、さらなるご寄付を必要としている。

何百万人の子どもが、紛争の恐怖を目の当たりにしている。T紛争下 における暴力は、ユースの心の健康に深刻な影響を与える。特に

思春期の女の子は、危機的状況が増す中で、ジェンダーに基づく暴力に晒されるおそれが高まる。

プランは、現地の団体と協力して、子どもやユース、そしてその保護者に心理社会的なケアを提供し、彼らが目撃した恐怖に対処し、苦痛から回復する道を歩み始めるのをサポートしている。

プランは、近隣諸国に到着した女の子や子どもの保護と安全、ウクライナで施設収容されている10万人以上の子どもや家族離散の危機にある子どもが置かれた状況を憂慮し、特に性的搾取や人身取引に遭いやすい女の子やユース女性の安全を危惧している。避難する子どもの中でも、特に女の子や障害のある子ども、保護者のいない子どもたちの保護と安全は、最優先で取り組むべき事項である。

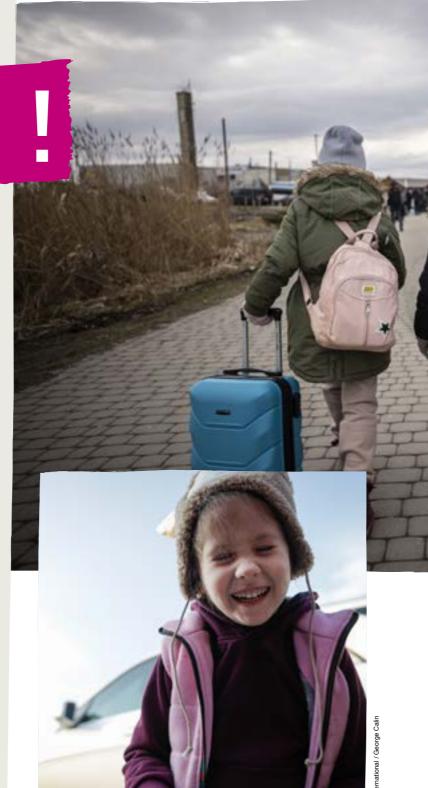
近隣諸国では、戦闘から逃れた人々への強い連帯感と、手厚い歓迎があった。避難を求める人が増え続ける中、私たちはこの対応の最前線にいる地方自治体、コミュニティ、組織の能力を強化するために、必要なサポートをする必要がある。

プランは、すべての女の子、子ども、若者のために、戦闘の即時停止 と長期的な平和と正義を求める。



私たちは、ウクライナの紛争によって人生を 引き裂かれているすべての人々と連帯してい る。より多くの命が失われる前に、私たちは今 行動しなければなりません。

Stephen Omollo、 プラン・インターナショナル最高責任者



「子どもの目を通して危機を見ると、明瞭に見えてきます。人道的危機下では、常に最優先すべきは子どもたちです」

Dr Unni Krishnan、プラン・インターナショナル 国際人道支援ディレクター 国連は、180万人超の子どもがウクライナ国境を越えてきたと推定している。紛争が始まって以来、毎日7万5000人の子どもが難民となっている。これはほぼ1秒に1人の割合で子どもが難民になっている計算になる。

国連によれば、戦闘によってウクライナでは1000万人が国内避難民となったり難民として他国へ逃れ」、約1300万人が紛争の影響を受けた地域で立往生している。紛争と無差別攻撃を即時停止しない限り、これらの数字はさらに増えるだろう。

緊急支援を必要とする難民

子どもたちは、戦闘から逃れる際に衝撃的な光景を目の当たりにしてきた。彼らは、凍てつくような天候の下、襲撃の危険にさらされながら、恐ろしい旅をしてきたのだ。

彼らは、シェルター、毛布、食料と水、保護と保健サービス、教育を緊急に 必要としている。

200万人以上の難民を受け入れたポーランドや、ルーマニア、モルドバ、ベラルーシ、ハンガリー、スロバキアといった近隣諸国に難民が到着している。

国境で避難を求める家族の列はどんどん長くなっている。その多くが、女性と子どもだ。

- 1 2022年3月25日時点の最新の国連統計値
- 2 https://data2.unhcr.org/en/situations/ukraine#_ga=2.260498829.1228437403.1646645342-

820909445.1643724626

370万人を超える

人びと*が他国へ避難し、650 万人がウクライナ国内で避難 生活を送っている

208万3854人の

ウクライナ難民が ポーランドに流入

36万5197人の

53万5461人の

ウクライナ難民が モルドバに流入

ウクライナ難民が ルーマニアに流入



150万人の

子どもがウクライナから避難

7万5000人の

子どもが毎日新たに難民となっている

少なくとも

1305人

が死亡し、そのうち子どもは

75人

だった

ウクライナと近隣諸国で今後3 カ月以内に出産予定の女性は

8万人

いると推定されているが、その 多くは大切な妊産婦医療を受 けられずにいる



570万人

の子どもとユースがウクライナ での学校閉鎖の影響を受けて いる

*国連による2022年2月~3月25日の数値より



が利用していたが、今ではウクライナの紛争 から逃れる何千人もの人びとの非常に重要 なライフラインになっている。

これまでにルーマニアに入国した難民は53万 5,000人を超える。その中に、8歳のヤリク、母 親のウィリー、親友のアレクセイ(10歳)と彼の 母親もいた。

彼らは、父親や夫、ヤリクの祖母や曾祖母を オデーサに残してきた。遠くから聞こえる空爆 の音で、街を離れることにしたのだ。

「幸いなことに、子どもたちはそのとき眠って いましたが、まだ怖がって、よく泣くんです」 と、ウィリーは言う。

この家族たちはこれからどこで一晩を過ご すのか、何日間を過ごすことになるのか、まっ たく分からないという。ヤリクとアレクセイが、 いつどこで教育を受けられるかも分からな

ウィリーは、彼らのお気に入りのカードゲーム 「UNO」などで、子どもたちの気を紛らわして いる。ひと時の間、彼らは笑い、遊び、子ども に戻ることができる。

こは、休憩できるスペースが充実していて、お 茶やスナックの提供があり、長距離の移動や 宿泊の拠点としても機能している。ここで女の 子や女性は生理用品を手に入れることがで き、おむつや赤ちゃんのおしり拭きもある。

書類審査を待つ人びとは、毛布やヒーターが 備え付けられたテントに滞在している。

15歳のケイティと12歳のヤナ姉妹、そして母親 のイリーナは、5歳のエヴェリナと10代の兄、 彼らの母親であるヴェロニカと一緒に移動して いる。彼らもオデーサから避難して来た。

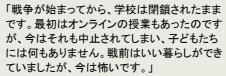
「オデーサでは、警報が何度も鳴ります。1日 に5回以上警報が鳴るので、離れることにしま した。とても悲しいことです。私たちは地下に 潜るしかないのです。子どもたちはストレス で、食べたがりません。オデーサには港や空 港、軍事基地があるので、爆撃されるのでは と、怖いです」とイリーナは言う。

ていましたが、今は怖いです。」

せん。まずは体を休めようと思います。それか アへ行こうと思っています。」 イリーナにとっていちばん辛かったのは、街を

歳)、アンナ(8歳)、ダニール(2カ月)の5人家 族は、車を持っていない。ベビーカーもないの で、荷物もダニールも全部自分たちで運ばな ければならない。

「私たちはイズマイールから来ました。このま まチェコに行き、友人宅に滞在する予定です。 私たちは、両親をウクライナに残してこなけれ ばなりませんでした」とアレクサンダーは言う。 この家族の場合、少なくとも行き先が決まって いて、宿泊施設もある。しかし、多くの人は、こ の先、何日も何カ月も、どこで過ごすか分から ないままだ。



一家は夜通し車を走らせ、オルロフカにたどり 着いた。「とても大変です。私たちは寝ていま らおそらくブカレストに行き、そのあとブルガリ

守るために戦うことになる夫と別れることだっ た。「友人の半分がウクライナを去りました。ウ クライナは私たちの故郷です、戻りたいので す。」

ディアナと夫のアレクサンダー、ジュリア(5



何百万人もの人びとが、今もなお恐 怖の中に隠れている

絶え間ない攻撃は、人道的緊急事態を深刻化し、大人に付き添われ ていない子どもや主たる養育者と離ればなれになった子ども、障害の ある人々など、もっとも弱い立場にある人々を含む、より多くの人々の 避難を困難にしている。

人道支援コミュニティは対応の規模の拡大を図っているが、継続的な戦 闘に起因する運営上の課題が、取り組みの妨げになっているのが現状 だ。水、電気、食料、医薬品の供給は滞り、人道支援機関が避難所に 閉じ込められている何百万人もの人々を支援することが困難になってい

私たちは、暗い地下室で恐怖の中隠れている子どもや、その保護者の ことを深く懸念する。通りから通りへの砲撃や戦闘が行われ、毎日多く の人々が死傷し、避難を余儀なくされている。

毎日死者数が増え続け、その中には多くの子どもも含まれている。 最も影響を受けるのは子ども、女の

子、女性

私たちは紛争地帯での経験から、危機的状況下では子どもや女の 子、女性が最も影響を受けることが多いことを知っている。この紛争も 同様と考えられる。

紛争はあらゆる子どもたちに、残された家族について心配させ、不透 明な将来や生活環境を与えるといった深刻な影響を永続的に与えるこ とになる。

女の子と女性は、性的搾取や虐待、人身取引、予防可能な妊産婦死亡 のリスクの高まりに直面している。ウクライナとその近隣諸国では、今 後3カ月の間に8万人の女性が出産するとされているが、その多くは重 要な妊産婦医療を受けられないままである。

学校、保健所、住宅、重要なインフラが攻撃されている。ウクライナ全 土の学校が閉鎖され、約570万人の子どもやユース⁴が影響を受け、保 護に対するリスクが高まっている。

「この危機は、子どもたちに深刻かつ 永続的な影響を与えるでしょう。彼ら は身体的、精神的、性的な暴力を受け やすくに、心理社会的な苦痛を多く抱 えています。」

Anita Queirazza、緊急下の子どもの保護リーダー

「紛争前はいい暮らしができていました。ウクライナ

イリーナ(ウクライナ難民)

は私たちの故郷です、戻りたいのです。」

https://www.unfpa.org/ukraine-conflict

⁴ https://reliefweb.int/report/ukraine/ukraine-humanitarian-impact-situation-report-300-pm-eet-6-march-2022

私たちの対応

プラン・インターナショナルは、地域 や国の団体、国連、政府とともに、難 民の子どものニーズに応えている。 子どもの保護、メンタルヘルスと心 理社会的支援、現金と引き換えクー ポンによる支援、教育、アドボカシー が私たちの優先事項である。

子どもの権利と女の子の平等のために活動 する世界的な人道支援組織として、私たち は、紛争があらゆる子どもに与える影響につ いて、数多くの経験を積んできた。

今回、私たちは、ポーランド、ルーマニア、モ ルドバのパートナー団体がこの大規模な難民 危機に対応する際に協働し、年齢や性別に応 じた人道的支援に関して重要な技術的専門 知識を提供することを優先的に行う。

これらの国にはプランの人道支援チームが おり、国や地域の団体、自治体と協力して、 ウクライナから国境を越える際に子どもや ユース女性、その家族や保護者を支援して

プランは、難民の受け入れや一時保護セン ターで活動する各国の団体の能力強化に焦 点を当て、危機的状況における子どもの保 護と心理社会的プログラムの作成に関する グローバルな専門知識を、女の子に重点を 置いて提供する予定である。

私たちは、人道的価値と原則、人道憲章、関 連する国連と機関間の基準およびガイドライ ンに基づき包括的なアプローチを採用してい る。ジェンダー、紛争配慮、発展-紛争-平和 が私たちの思考と行動に影響を与えてい る。私たちは「ドゥ・ノーハーム(危害を加えて はならない)」アプローチを採用している。

「戦争終了後も長期的に、紛 争地域や災害地域、難民 キャンプにいる子どもたち は、心の中で苦しみを抱え続 けます。心理的な応急処置と 心理社会的なサポートを提 供することは、支援の初日か ら非常に重要です。

Dr Unni Krishnan、プラン・インターナショナル国際人道支援ディレクター

主要な活動

保護する: 危害から守る

プランは、モルドバ、ルーマニア、ポーランドの 国境にある一時保護センター、難民受け入れ 施設において、包括的で安全な、子どもに優し い環境の強化に取り組んでいる。これには以 下が含まれる。

- 大人に付き添われていない子どものケアと サポートを行うソーシャルワーカーと心理 士からなる出張チームの派遣。また法律、 保健、精神保健、心理社会的サポート、現金とクーポンによる支援、学用品の配布などの支援サービスの提供。
- 特に大人に付き添われていない子どもの 人身取引のリスクを洗い出すための、現場 スタッフ、ボランティア、国境警備員に対す る子どもの保護と安全に関するトレーニン
- サービスのマッピングと児童保護紹介の仕 組みの強化。
- 子どもでも理解できる情報の発信やヘルプ デスクを通じて、子どもや保護者が利用で きるサービスを案内することで、子どもの保 護に関するリスクや庇護申請手続き、権利 に関する理解の促進を支援。

精神保健と心理社会的 支援

プランは、子ども、ユース、保護者が 苦痛から回復できるよう、質の高い 心理社会的ケアとサポートを提供す るため地域の団体を支援す。これに は以下が含まれる。

- メンタルヘルスの専門家と協力 し、作業やアート、遊びを組み合 わせた、子どもやユースのための グループ活動。
- 国境や難民収容センターで難民 を迎えている、最前線で働くスタッ フやボランティアへの心理的な応 急処置のトレーニングの実施。
- 心理士を含む、子どもと関わる仕 事に携わる専門家のための技術 支援とトレーニング。
- ジェンダー、年齢、障害への配慮 を活動に反映。

非常時の教育

ウクライナ紛争は、子どもたちの教育を壊滅 させた。子どもたちを学習に復帰させること は、保護された空間と正常な感覚を提供する ために非常に重要である。

政府当局や団体と協力し、難民の子どもたち が地元の学校に溶け込めるよう支援してい

産は人生を変えるもので はなく、命を脅かすものに なりかねないことを私たち は知っています。

「危機的な状況では、出

女の子や女性は、熟練し た医療従事者や安全な医 療施設もなく、きわめて危 険な状況での出産を強い られることがあります。ま た、意図しない早すぎる妊 娠を防ぐことも重要です。

女性と子どもの健康と福 祉は、危機が起こる前か ら危機の最中、そして危 機が過ぎ去った後も守ら れなければなりません。」

プラン・インターナショナル性と生殖に関す る健康と権利アドバイザー



ルーマニア | 2022年3月5日

「ママは爆弾が来るのを恐れていた」

ブカレストの混雑している駅を見回しながら、ケイティはどこで寝ようかと考えていた。16歳の彼女は生まれて初めてウクライナを離れ、いつ帰れるかわからない状態である。

ケティは、ウクライナの国境の町チェルノフツィを、母親と一緒に立ち去った理由をこう説明した。「街中や周辺地域でサイレンが鳴り響き、ママは『離れた方がいい』と言った。街のあちこちが攻撃されていて、ママは爆弾が落ちて来るのを恐れていた」

「ここまでくるのに7時間かかりました。電車は混んでいました。私たちは座ることができたのですが、多くの人は立っていなければなりませんでした」。でも、少なくとも安全だった、と彼女は付け加えた。「電車を降りるとすぐに支援者の人たちがいて、支援団体が準備を整えてくれていました」

母親が列車の切符を買うために並んでいる間、ケイティはわずかな荷物を持って一人で待っていた。「今夜、列車でブダペストへ向かいます。知り合いはいません。アメリカに行きたかったのですが、チケットが高くて…」紛争が始まる前、ケイティはタトゥーアートを学んでいた。「大学へ進学し、タトゥーアーティストになるために見習いとして働きたいです」と彼女は話した。



ウクライナに残っている人たちのことが心配で、いつ再会できるのかわからないという。「私の親友は、兄弟と父親がいるのですが、彼らはウクライナを離れることが許されないので、家族一緒でいることを決めて、地元の町に残っています。私の恋人も地元にいます。彼は彼の父親と一緒に軍用車の修理をしています」。

「ちょっと怖いけど、きっと大丈夫だと信じています。また、家に帰りたいです。」

「大学へ進学し、さらに タトゥーアーティストになる ために見習いとして働きた いと思っています。ちょっと 怖いけど、きっと大丈夫だと 信じています。」

ケイティ、16歳、ウクライナ難民

ポーランド 2022年3月10日 恐ろしい争いを逃れて

ヘイムで、27歳のカタリーナは近くの都市ルブリンに向かう列車を待っていた。彼女は5歳の弟と義母とともに父親に見送られ、父親は心のこもった別れを告げたあと、戦いのためにウクライナへ車を走らせたという。

「この紛争が起こったとき、私はキーウにいました。戦闘の初日、父が朝の5時に電話をかけてきて、『これは戦争だから他の村に行き、そこで滞在しなさい』と言ったのです」。

「母が毎日電話をかけてきます。あまりにひどい、本当に戦争なのです。説明できないんです。自分の目で見なければ分かりません。」 「毎日、寝るときに警報が聞こえるので、何か起こるんじゃないかとビクビクしていました。音が聞こえたらすぐに爆弾だと思い、急いで安全な場所に逃げなければなりません。」

「しばらくすると、それが日常になり、これが今の私たちの生活なのかと、おぞましさを感じました。 頭上で何かが聞こえると、必ず人が殺さ

れるのです。非常に多学校や病院が打撃を 受けています。」

「何が起こったのか信じられません。いつま た母に会えるのかわかりません。」

「私の妹がルブリンに住んでいて、彼女の家族には家があります。私たちのために何か探してくれるでしょうが、たくさんの人が来るので、簡単な話ではありません。」

「故郷のみんなは、家出てしまいました。私はこのバッグ1つだけで、私と弟は身を寄せる家がありません。しかし、この状況は長続きしないと信じています。私も、みんなもそう信じています。」

「弟は何が起こっているのか理解していません。何かが起きたということは理解していますが、それが何なのかは分かっていません。大きくなれば、理解できるようになるでしょう。時々、いつお父さんに会えるのか、いつ家に帰れるのか、これから何をするのか、と聞くこ



ともあります。」 「今すぐ戦争をやめてほしい。お父さんとお 母さんに電話して、帰ってくるよと言いた

ポーランド | 2022年3月10日 涙と温かい迎え入れ

ヘイム駅前の芝生の広場は、忙しく働く人々で 活気にあふれている。

毎日、電車やバスで何千人もの人が到着する。長く困難な旅で疲れ切っている多くの人たちは、温かい食べ物や水、ベビー用品を提供してくれる屋台に感謝している。

ボランティアのジャスティナはバーベキューで ソーセージを焼いていた。「私は農村主婦サー クルのメンバーです。ここには友人と一緒に来 ました。ウクライナから来る人たちを助けること は、私たちにとってとても重要なのです」

ポーランドの人々は、募金箱からあふれるほど の寄付金から、食料、交通手段、宿泊施設の 提供まで、国中で難民を温かく迎えている。 「今日、新しい国に来て、新しい人々と出会

「守日、新しい国に来て、新しい人々と出会 い、新しい言葉を学ぶ子どもたちを見て、泣き ました」とジャスティナは付け加える。

ヨーロッパは、第二次世界大戦以来最大の難 民危機に直面している。当局は、日に日に増加 することが予想される人々の流入のために、住 宅、学校、社会サービスを拡大しようと奮闘し ている。

「子どもやその親たちは非常に不安で、ウクライナでも、到着したこの国でも何が起こるのか全くわからないのです」と、ポーランドで活動す

るプランの緊急対応チームのLotte Claessensは言う。

「子どもたちの場合、リラックスできるような活動や普通の感覚を得られるような支援は非常に重要です。つまり、今の状況を忘れさせてくれるような遊びをすることです。また、親がストレスを感じていると、子どもにもそれが伝わってしまうので、親をサポートすることもとても大切です。

「現在、各団体は学校と協力して、ウクライナの子どもたちがポーランドの子どもたちと一緒に学校に通えるようにするための準備を進めています。数百万人のウクライナ人がポーランドで暮らすという長期的な状況を想定して、多くの準備がなされているのです。」 ジャスティナは、これからも到着した家族のた

めにできることは何でもしていきたいと言う。 「今、ポーランドはすべてのウクライナ人、女 の子、男の子、子ども、すべての人びとに開 かれています。彼らは私たちの友人です。」 ルーマニア 2022年3月8日

子どもの沈黙は、 彼らの物語

ウクライナとルーマニアの国境にあるガラティの一時的な受け入れセンターには、オデッサの爆撃から逃れてきた7歳のアンナ*が母親のソフィアと祖母とともに到着した。

「終わりのない悪夢で神経をすり減 らしました」とソフィアは、一家が長 時間の遅延に見舞われた旅につい て語った。

一般市民が被害に遭う可能性のある爆撃のニュースは、彼らの不安を 増幅させるだけだった。

さらに悪いことに、アンナは口をきかなくなってしまった。母親に抱きつきながら寝言を言うだけである。アンナはオデーサで爆発と死を目の当たりにした。それは子どもが決して見るべきではない光景だった。戦争や暴力は、子どもたちから子どもらしさを奪い、彼らを沈黙させる。子どもの沈黙は、しばしば彼らの物語であり、戦争や紛争の子どもや生存者の心のニーズに応えることは、人道支援活動において優先されるべきことである。

戦争や紛争、難民の現場では、子 どもの保護リスクやそのほかの要 因が人間の苦しみを増幅させる。

この3世代の家族は、大切なものを入れた3つのリュックサックだけを持って、安全な場所を探さなければならない。

ソフィアは気を引き締めて、計画を 立てている。

「人生は歩み続けなければならない。そしてこの子の面倒を見なければならない」と、彼女は娘を指さしながら語る。

*仮名

「学校に行くことは、情緒面や心理的にも非常に有益です。教育は、子どもやユースが知識や技能を継続的に身につけ、他の人と交流し、その他の重要な支援サービスを利用できる安全な環境を提供します。また、学校に通っている女の子は、性的搾取や人身取引、家庭内労働などの危険にさらされる可能性も低くなるのです。」

Emilia Sorrentino、プラン・インターナショナル 緊急時教育スペシャリスト

Plan International / Mikko Toivonen

今求められる アクション

即時停戦とすべての戦闘の終結 人道支援物資と人道支援活動

ウクライナで戦闘の影響を受けている子ども たちやユースのために、紛争の即時終結を図 ることがきわめて重要である。

プランは、即時かつ永続的な停戦を求める世 界的な要求に賛同する。

私たちは、民間人を保護し、人命の損失を防 ぐために、紛争の迅速な終結を確保するため のさらなる外交努力を求める。

私たちは、主要な紛争当事者間で対話が行 われることを望む。この紛争の解決は軍事的 なものであってはならず、和平交渉に女性が 重要な役割を果たすことで、社会的結束と平 和構築を促進するものである。

学校、病院、その他民間人が使 用する施設は、決して標的にし てはならない。

民間人や民間の対象物を標的にした攻撃は、 国際人道法で禁止されている。

学校や病院、水や電気など、子どもが必要とす る設備 は、決して戦争や紛争の際に攻撃の標 的になってはならない。

すべての人に安全で差別のない 道を

子どもとその保護者の安全を確保し、安全回 廊を提供しなければならない。

紛争の影響を受けたすべての人は、人種、宗 教、国籍、性別、年齢、能力、セクシュアリ ティ、その他認識される差異による差別を受け ることなく、保護を受ける権利を有する。国境 での扱いは、もっとも弱い立場にある人々を優る。 先し、公平でなければならない。

人道的対応に差別はなく、戦闘から逃れたす べての人に安全で非差別的な通行を提供す ることが重要である。

家のための妨げのないアクセス

子どもを支援する人道支援活動家のアクセ スを拒否することは、国際人道法で禁止され ており、人道に対する罪や戦争犯罪とみなさ れる可能性がある。

人道支援要員と救援物資の安全な通行を可 能にする、迅速で妨げのないアクセスは、必 要不可欠である。

難民支援

プランは、子どもたちとその家族、保護者が 安全な場所にたどり着くための、安全で合法 的な経路の拡大を支援する。家を離れること を余儀なくされた人びとは、避難所や支援を 求めることが許されなければならない。

近隣諸国は、戦闘から逃れてきた人々に国 境を開放している。すべての潜在的な受け入 れ国は、国連難民条約に基づく義務を順守 しなければならない。EU加盟国は、一時的保 護指令の適用範囲について幅広い理解を採 用し、ウクライナから逃れてきたすべての人 に平等な保護を与えるべきである。

ノン・ルフールマン原則は尊重されなければ ならず、誰も危害を受ける可能性のある国に 戻されてはならない。

女の子、離ればなれになった子 ども、大人に付き添われていな い子どもの保護

状況が悪化し続ける中、私たちは女の子と ユース女性の保護と安全について懸念してい

主たる養育者と離ればなれになった子どもや 大人に付き添われていない子どもは虐待を 受けやすく、その結果、特に女性や子どもの 人身売買が増加する可能性がある。移動中 や受入国における子ども、特に女の子の保 護と安全が最優先されなければならない。

プランは、安全で質の高い教育、子どもの保 護、性・ジェンダーに基づく暴力防止 と対応 サービス、心理社会的・メンタルヘルス支援、 その他の必須サービスを含む、子どもとジェ ンダーに優しいサービスをすべての子どもが 安全に利用できるようにすることに尽力して



emergencies/ukraine-appeal/

